

事例紹介大学等のプログラム概要【学生支援のテーマ別での実施】

《課外活動支援》

1. 神戸大学（平成20年度選定）

プログラムの名称	地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力 －震災の記憶の伝承と組織的体制の構築による学生活動支援
(プログラムの概要) 阪神・淡路大震災の復興期、本学学生と教職員は地域住民と協同して、地域に貢献する活動を展開してきた。しかし13年が経ち、個々の学生と教職員・地域住民との関係や学びの内容が失われつつある。そのため、本取組により、今まで学生の活動を個々の努力で支援してきた学外者を「共生・減災応援団」として組織する。また、学生同士が刺激し合う「学生コラボセッション」を中心に、神戸や中越の被災者などの震災の記憶について、学生が直接に話を聴く「震災語り場」を展開するなど、学生が地域で主体的に活動する動機づけを行う。 さらに、学生が被災地での活動を体験する「地域に根ざし人に学ぶ実践塾」を、経験を積んだ学生と応援団の協力で実施する。 以上の取組を通して共生的人間力を身に付けた学生が、地域で新たな活動を創造的に取り組むことを狙う。 これらの取組を「協力教職員」が参画する学生ボランティアサポートセンターを新設し、支援・発展させる。	

2. 慶應義塾大学（平成19年度選定）

プログラムの名称	卒業生と連携した地域協働型政策研究支援 －フィールドワークと地域協働型政策研究支援プログラム
(プログラムの概要) 本プログラムでは、学生の地域協働型政策研究ニーズと卒業生・地域の学生支援ニーズを背景に、学生・卒業生・教員の人材・知財データベースを構築し、そのネットワーク化を図る。それにより、学生による国内のフィールドワークを重視した地域協働型政策研究支援を行う。学生が地域政策課題を卒業生・教員とともに体験・学習し、政策立案に至る過程を理解する機会を提供する。まず、湘南藤沢キャンパスで政策研究支援機構と連携した取組みを開始する。その後、他学部にも取組みを拡大し、学生の政策研究支援に関する学内連携の体制を強化する。構築した体制や仕組みを基に、慶應義塾の膨大な卒業生（塾員）ネットワークを活用した、全国規模での学生のフィールドワーク支援・政策研究支援の強化、及び卒業後の地方就業促進を期待している。この取組を通じて、「独立して生きる力」と「協力して生きる力」の両方を備えた「未来への先導者」の育成を目指す。	

3. 松本大学（平成20年度選定）

プログラムの名称	若者の地元定着につなげる地域活動の支援 －地域まるごとキャンパス「地域づくり考房『ゆめ』」の実践
(プログラムの概要) 地方の小規模大学として本学は、地元の若者を教育して地元へ還すことを旨とした教育と学生支援を実行してきた。「地域」一般ではなく、地元である長野県あるいは松本市で活動できる人材を養成するための学生支援を目指し、我々は、そのための専門組織「地域づくり考房『ゆめ』」を拠点に学生の地域実践を強力に支援してきた。 本プログラムは、地域貢献度が高いと評価された従来の取組の成果を踏まえ、地域活動のなかでも手薄だった分野を開拓することで、責任感のある即戦力に近づくことができるよう、学生を支援するための取組である。 この取組は、地域活動支援センターの分室を中心市街地に設け、地域実践を積んだ学生に、そのスタッフとして活動する機会を与えることを大きな特長としている。公共機関と本格的に協働するための最前線基地が分室であり、学生スタッフの配置は、学生自らが支援する側に立つことを通じて責任感を醸成することを狙いとしている。	